

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人青梅わかば福祉会 ジョイントワークひこぼえ

代表者・役職名 理事長 氏名 菅原 徹 夫

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

水耕栽培を用いた精神障害者の就労訓練の機会の創出と工賃向上への取り組みに必要な液肥供給システム内蔵トイレの建設

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

精神障害者が地域の中で交流を深め、自分たちの力を試し社会参加や経済的自立の足掛かりとなる場所づくりを求める当事者、家族、関係者の声から、保健所主催の地域精神保健福祉専門委員会から産声があがり、1991年4月に任意団体として設立。2006年9月のNPO法人格取得を経て、現在は就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業を行っている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

従来までは室内作業を主として行ってきたが、精神障害者の経済的基盤を少しでも強くしていくためには新しい方法による安定した工賃支給が不可欠であると考え、水耕栽培を用いた農作業を導入し事業を開始した。精神障害者は処方薬の副作用により口の渇きが過度になったり、尿が出づらくなるなどの症状が現れることがあり、それらへの対処として水分を多めに摂取しているケースがある。また、トイレが至近にないこと自体が精神的不安を招くこともあり、現地で活動を進めるにあたり、トイレを確保することが急務となった。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2016年11月に開始した水耕栽培を用いた事業において、現地での作業環境の向上と生産態勢を整える上で最重要課題となっているトイレ問題の解決をはかるもので、本プロジェクトで使用するトイレは農地用トイレとして開発され、微生物や酵素剤の作用によって排泄物を液肥に変える仕組みを導入することで、産業廃棄物処理法に適合し、長期間にわたり汲み取りを必要とせず、電気設備や水道配管(ポリタンク使用による簡易水洗)も不要である。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

トイレ完成までは、近隣の市民センターのトイレを休憩時間ごとに使用させていただいていたが、そこまで利用者を送迎する必要がなくなった。また、トイレに不安を抱える利用者などが現地作業に参加しやすくなった。平成29年度の室内作業の時給が143円～196円(月によって差がある)であるのに対し、水耕栽培は時給300円を出せており、トイレの整備は時給の高い作業への参加の機会を広げることもつながっている。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

本プロジェクトに実施により作業環境は大幅に改善され、それは生産体制の強化につながった。今後の課題としては、厳冬期や猛暑期の作業場所を確保(現在は現地ビニールハウスで収穫後の加工まで行っている)し、生産効率の向上をはかること、販路を拡大し更なる工賃の向上につなげていくことなどがあげられる。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

